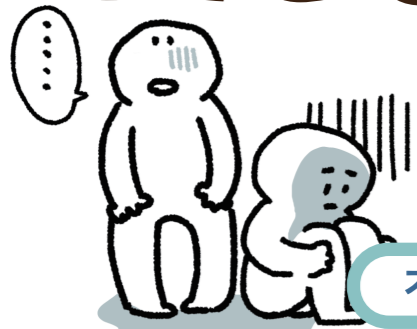


知的障がい者は、もしもの時 こんなことに困ります

知的障がいは、見た目ではわかりづらく、困っていても周りが気が付かないことがあります。もし災害時、こんな行動をとっている人を見たら、助けが必要かもしれません。



不安

悲壮な顔で立ちすくむ/座り込む



あっちこっち
ウロウロ
どうしていいか
わからない

危険な場所でも
通ろうとする



周りの危険が
わかりにくい



知的障がい者の特徴

知的障がいのある人は判断をするのが苦手で、時間がかかったり、短絡的に判断してしまったりします。災害は突然起こり、命に関わる素早い判断が求められますが、上手く判断ができずにたたずんでいたたり、闇雲に走ったり、周りの人の動きとは違う行動をしてしまったりします。

※さまざまな特性を持っている人がいるので、すべてにおいて当てはまるわけではありません



大声で叫ぶ
号泣してしまう
恐怖でパニック
不安な状態



どうしていい
かわからず、
なかなか歩
けない



トイレに行き
たいのかも？

モジモジする/前を
押さえる

こんな「たすけ」を まっています！

困っていそうなら



どうしたの？
大丈夫よ

優しく、ゆっくりした口調で話しかけて下さい。会話をしているうちに安心します。

アナウンスがあっても じっとしていたら…

アナウンスを聞いたか確認して、一緒に行動してください。もし「知らない」「いい」と否定しても、本意ではない時もあります。



コミュニケーション カードを持っていたら

記載された連絡先(家族)に連絡できる状況なら、連絡してください。

パニックに なっているようなら

静かなスペースや部屋の隅など、落ち着きそうなところへ連れて行ってください。



歌やゲームなどで気を紛らわせることができます

移動の時



知的障がいがあるため、災害の状況が理解できず、ピンと来ないかもしれません。自力では避難ができないため、安全な所に連れて行ってもらうことで緊張や不安が和らぐと思います。パニックになる人もいます。そのときの状況や緊急時であることが理解しにくいので、ゆっくりジェスチャーを交えて話してもらえたら助かります。

避難先で…

スペースについて

知らない人が大勢いる避難所では、ストレスを感じてパニックになりやすいです。仲間と過ごす静かなスペースが必要です。

また、服用している薬がある場合は副作用で頻りにトイレに行きたくなる上に、使い慣れていない簡易トイレは慣れるまで時間がかかります。できればトイレの近くにスペースがあると助かります。

トイレについて

トイレの場所を見つけられない、列の並び方が分からないなど、困っているかもしれません。「トイレはここだよ」「ここで順番を待つんだよ」など声かけして下さると有難いです。

知的障がい者との コミュニケーションに 役立つもの

コミュニケーション カード

保護者の連絡先や、相手に伝えたいこと、してもらいたいことが書いてあります。カードを見せてきたら、何か伝えたいときなので見てあげてください。



安心するもの

パニックになっている時や一人で困っているときに本人がお気に入りの物があると安心します。(ほっとハウスではみんなそれぞれが安心するものを防災リュックに入れてあります。渡してあげてください。)

一緒に あそぶ

歌ったりゲームをしたり、遊んで気を紛らわせることで心が和らぎます。一緒にあそんでください。

